



ゴミ減量の 良いPRに

紙リサイクル庫外観デザインコンテストで最優秀賞を受賞した栗田さん、優秀賞の鈴木さん、おめでとうございます。今回、紙リサイクル庫に2人のデザインを描くに当たり中央工科デザイン専門学生の協力をいただき、非常に鮮やかで素晴らしい物となりました。本市のゴミ減量やリサイクルの推進に良いPRになると大いに期待しています。

本市では、平成16年の環境都市宣言の理念の下、「分ければ資源・混ぜればごみ もったいないの心で築く環境都市まえばし」を目指し、市民・事業者・行政が一体となってゴミの減量やリサイクルを推進しています。その一環で、紙リサイクル庫の導入に取り組み、これまで市内17カ所に設置しました。今後も、さらに回収量を増やすため10カ所を増設し、ゴミの減量やリサイクルの推進につなげたいと考えています。

どうか皆さんには、この経験をきっかけにしてデザインの勉強だけでなく、環境問題やゴミ問題を考えていただければと思います。
(紙リサイクル庫外観デザインコンテスト表彰式、3月7日、市役所)

ふれあい広場

まえばし シティフラッシュ



「新前橋駅川曲線」と高崎市の「南八幡京ヶ島線」の一部区間が三月二十五日に開通。多くの両市民が見守る中、テープカットが行われました。交通渋滞緩和や利便性の向上を目指し、両市連携で建設した待望の幹線道路です。

幹線道路開通でより便利に



人権問題を考える

人権を考える市民の集いが3月17日、粕川公民館で開催されました。小中学生の人権作文発表の後、タレントのなべおさみさんが講演。「互いに褒め合うことでみんなが幸せになる」という言葉に、参加者は大きくうなずいていました。

交流を一層盛んに

海外友好都市のイタリア・オルビエート市からステファノ・モーチョ市長らが本市を訪れ、3月20日、高木市長を表敬訪問。友好都市締結10周年を12月に迎えるため、両市での記念イベント開催などについて話し合いました。



子どもたちで 手作りの門出

本庁管内

第一天川町の集会所で三月十一日、小学校の新入学児童のお祝い会と卒業生の送別会が開催されました。
子どもたち自ら、協力して会場の飾り付けや会の進行を行います。みんなで歌を歌ったり、ゲームやお菓子のつかみ取りに挑戦したりと、笑顔がいっぱい。二十五人の新入学児童と卒業生には、記念品なども贈られ、楽しい一日を過ごしました。
井上広志自治会長は「何事にも感謝の気持ちを持って、楽しく学校生活を送ってほしい」と話していました。



野菜作りで 交流深める



上川淵地区

三月二十五日、東善町で無農薬野菜作りが行われました。安全な食を地域の特色にすることが目的で、上川淵地区地域づくり推進事業食育部会が主催。家族連れなど五十人が参加しました。
この日はジャガイモの植ええ。最初は慣れない手つきだった子どもたちも、土と触れ合うことの喜びを感じて、楽しく作業を終えました。
鈴木正知地域づくり協議会企画運営委員会代表は「世代間の交流を深めるイベントを地域全体に広げていきたいですね」と話していました。

試作品種の受賞にびっくり

people
ピープル



県施設果菜類品評会で知事賞
中島 光一さん(33)
上増田町

第二十四回県施設果菜類品評会でキュウリの部金賞になり、各部門金賞の中から最も優れた出品物を選ばれる知事賞にも輝いた。
「初めての金賞で、しかも

知事賞にまで選ばれびっくりしました。光栄です。今年、品種を変えて試作しているのですが、受賞できたのも関係者の皆さんや家族のおかげと感謝しています」
十九歳で就農。父親が取り組んでいたキュウリ作りを一緒に始めた。
「昨年まで作っていた品種は市場の評価も高く、おいしくて高値で取引されるのですが、どうしても五・六月になると、品質の良いキュウリの率が下がってしまいます。そこで、今年一月の植え替え時期に品質の下がらない品種へ

とすべて変えたのです」
今の時期、朝六時には収穫を始める。一本の木から品質の良いキュウリを多く作るため、課題は尽きない。
「コンピューターで温度管理されたハウスの中とはいえ、湿度や日照など一日たりとも同じ日はありません。だから毎日、水や肥料に気を遣います。土壌消毒も大切で、今までの薬品が禁止され使えなくなるなど、いろいろと苦労がありますね」
六月にかけて、これからが最盛期。おいしいキュウリを作るため、ますます忙しい。